

# 激動の経営

## 溶接機開発

溶接を核に技術を磨いてきたエイム。2006年、ある商社からYAGレーザー溶接機を作らないかと開発を持ちかけられる。紹介を受けた溶接機の技術

者と連携し、図面を基に取りかかったが図面完成度が低く、電気配線などの知識も乏しかったことで失敗を繰り返した。小山孝社長は「ようやく完成して販売したが、コンスタントに売れるような物ではなかった」と振り返る。

ただ、次に取り組んだファイバーレーザー溶接機で潮目が変わった。同溶接機は消費電力が少ないことやアルミニウム溶接を効率良く行えるのが利点。YAGレーザーで溶接機

## 「水素カプセル」完成

開発の基礎を学んだ点を生かした。小山は「社内に溶接部門を持ち、実加工に適した条件出しでできるのが強み」と胸を張る。同溶接機は16年に1キロワットタイプ、20年には1・5キロワット

### OEM生産

が強いと打ち出したことが、さらなる展開を生む。主にスポーツ選



水素カプセルはデザインを一新。一般家庭のリビングにもなじむ(AirPodエスカルゴ)

## 溶接技術が夢つなく

手らが疲労回復などに使用していた酸素カプセルを製造する企業から新タイプのOEM(相手先ブランド)生産ができなにかとの問い合わせが舞い込んだ。エイムは酸素カプセルのOEM生産を設計から請け負い、同カプセルを12年に完成させた。

### 認証取得

「ISO13485」を取得した。

自家製品として世界初の「高気圧水素カプセル」が完成、18年に発売した。同カプセルは外付けの発生機から新鮮な水素を供給し、カプセル内の水素濃度を1~2%に保つ。手軽に水素浴が行え、疲労回復、抗酸化作用などが期待できるとい

見かけた。これを試しに自社が作っていた酸素カプセルにつなぎ、水素を循環させると内部の水素濃度が0・8%になった。工夫を重ねカプセル内の水素濃度を2%弱にすることで成功。17年4月に特許を取得した。医療機器の品質マネジメントシステム認証「ISO13485」を取得した。スポーツ界では駿河台大学駅伝部、バレーボールのVリーグ男子で2連覇を達成した「サントリリーサンバース」などが導入。プロゴルファーの今平周吾氏も愛用している。累計出荷は約500台。小山は「現在米国食品医薬品局(FDA)認証の取得を目指しており、取得できれば海外でのさらなる飛躍が期待できる」と意気込む。(敬称略)